

東京は例年より寒い2月のような気がしますが、  
花粉が飛び始めたと言って目をこするスタッフもいて、  
季節は少しずつ進んでいるようです。

## ◆ 第34回日本語弁論大会 2月4日にオンライン開催

恒例の日本語弁論大会が2月4日にオンラインにて開催され、15名の発表者が  
日頃の練習の成果を披露しました。



古屋和雄大会実行委員長

大会実行委員長の **古屋 和雄 理事**（文化外国語専門学校）は  
開会のあいさつでこれから話す発表者に「カメラの向こうに  
皆さんを優しく育ててくれた家族の皆さんを思い浮かべながら  
皆さんの言いたいこと、伝えたいことをにこやかに話してく  
ださい。」と温かい励ましのメッセージを送り、第34回大会  
が開幕しました。今年も非常にレベルが高く、審査員の先生  
方を悩ませる大会となりました。

昨年度に引き続き、東京の事務局をホストにオンラインでの開催となりましたが  
今回は YouTube でのライブ配信も行われ、多くの方に日本語弁論大会を見ていた  
だくことができました。

大会の開催にあたっては、今回も多くのご協力いただきました。  
改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

**ご後援** 文部科学省  
日本私立大学協会  
全国専修学校各種学校総連合会、  
(公社) 日本語教育学会  
(一財) 日本語教育振興協会

**ご協賛** (株) 東京教育公論  
(株) 凡人社  
(株) ライセンスアカデミー

## ◆ 最優秀賞・文部科学大臣賞は

### DEHASPE ADAM さん (学校法人江副学園新宿日本語学校) !



DEHASPE ADAM さん

今大会で最優秀賞に輝いたのは、新宿日本語学校の  
デハスプ アダム DEHASPE ADAMさん (ベルギー) でした。「幸せを探す  
こと」と題し、聞き手の皆さんに幸せとは何かを訴えかけ  
ました。

#### 「幸せを探すこと」(要旨)

私は、幸せ探しが始まった瞬間を、正確に覚えています。それは、12歳の時、  
校庭で卒業したら何をするかという話が始まった時のことです。私には、同じクラ  
スにいとこがいて、彼女は、数週間前に癌で亡くなりました。私は、あの時、あの  
校庭で、人生は想像以上に残酷で、幸せは当たり前のものではないということを理  
解したのです。そして、その時から、私は、幸せとは何か、幸せを探したい、幸せ  
になりたいと思ってきました。

いとこは、癌と診断されてからも、笑顔を絶やすことのない女の子でした。彼女  
だけは、いつも幸せそうに見えました。けれども、気づいたのです。彼女は決して  
幸せを探し求めてはいなかったこと、そして、彼女は、自分が人にもたらす笑顔の  
中にそれを見出していたのだと。

もし、本当に幸せを見つけないのなら、幸せを目的地にしてはいけません。まず  
は他の人を助けることから始めてください。そうすれば、幸せは自ずからついてく  
るのです。

## ◆ 外務大臣賞を受賞は

### BANGOURA NAFISSATOU JOY さん(外語ビジネス専門学校)

「国際的な問題解決への提案や国際交流の  
発展などをテーマとしたスピーチでもっとも  
優秀なもの」に贈られる外務大臣賞を受賞し  
たのは、外語ビジネス専門学校の  
バングーラ ナフィサトゥ ジョイ  
BANGOURA NAFISSATOU JOYさん  
(ギニア) でした。



BANGOURA NAFISSATOU JOY さん

## 「優しさの種を心に」(要旨)

2000年ごろ、ギニアは隣国の内紛の影響を受け、また母が国連難民高等弁務官（UNHCR）の職員として紛争地を飛び回る生活をしていたため、私は7歳から16歳まで親と離れフランスで祖母と暮らしました。

アメリカで大学生活を送る中、これまでの精神的な限界がきて中退しました。17年ぶりの母との暮らしで安心感を得ると、優しさとは受け入れて初めて成り立つものだ実感しました。人間は生まれながらに優しさの種を持ち、花を咲かせまた種をまく。その優しさを自分に与え受け入れることが大事だと分かりました。

生きる力を得て「文学」という新たな未来が生まれ、平安文学を学ぼうと日本へ留学しました。これからは、人の心を知り自分を知り、自分の人生を生きよう。そして、世界を優しさで繋げられる人間になれるよう、頑張っって学んでいきたいと思ひます。

続いて、今回の入賞者の皆さんを紹介しします。最優秀賞・文部科学大臣賞、外務大臣賞に加え、優秀賞3名、審査員特別賞2名が選ばれました。

### 最優秀賞・文部科学大臣賞

「幸せを探すこと」

DEHASPE ADAM (ベルギー) 学校法人江副学園新宿日本語学校



### 外務大臣賞

「優しさの種を心に」

BANGOURA NAFISSATOU JOY (ギニア)

外語ビジネス専門学校



### 優秀賞

「驚くべきチカラ」

CINDY CICILIA (インドネシア) 清風情報工科学院



「欠けているものへの美」

権 草園 (韓国) 専門学校アジア・アフリカ語学院

「日本語上手」

CALSINA ALGUE ROGER (スペイン)

神戸 YMCA 学院専門学校



### 審査員特別賞

「虫も見た目が9割」

崔 鐘元 (韓国) 関西外語専門学校



「自分らしく生きる」

張 菁芳 (台湾) 大阪 YMCA 国際専門学校



入賞は逃したものの、次の皆さんのスピーチも心に響く素晴らしいもの、参加賞をお贈りしました。ご指導にあたった先生方にもお礼をお伝えしたいです。

「歩くアート」

BAATAR BILGUUNTUYA (モンゴル)  
岩谷学園テクノビジネス横浜保育専門学校



「お金の使い道」

TAMBA HANS ADVENT MARULI (インドネシア)  
ECC 国際外語専門学校



「ジェンダー平等について」

夏 一暁 (中国) 専門学校湖東カレッジ



「政治に対する日本人の無関心」

YUE NAM YOONG YEE KONG CHIANG CEDRIC (モーリシャス)  
福岡外語専門学校



「あなたは誰と話していますか」

白 逸飛 (中国) 横浜デザイン学院

「弓の道」

BELTRAN NEIL SARMIENTO (フィリピン)  
神村学園専修学校



「夢を空に」

DWI SEPTIANI (インドネシア) 文化外国語専門学校



「私と孤独」

NGHIEM KHANH VAN (ベトナム)  
大阪バイオメディカル専門学校



今回は本来であれば、大阪で開催される予定でした。そこで、大阪地方にゆかりのある方を中心に、次の五名の方々に審査員をお願いいたしました。長時間にわたる審査、本当にありがとうございました。

- ・文化庁 国語課長 **圓入 由美** 先生
- ・公益社団法人 日本語教育学会 常任理事  
独立行政法人 国際交流基金 関西国際センター  
日本語教育専門員 主任 **熊野 七絵** 先生
- ・大阪大学 日本語日本文化教育センター 准教授 **蔦 清行** 先生
- ・関西学院大学 神学部 教授 **浅野 淳博** 先生
- ・株式会社 凡人社 取締役 **田中 美加** 先生



圓入由美先生



浅野淳博先生



田中美加先生

大会全体の講評を大阪大学の **蔦 清行 先生** にお話しいただきました。「今年も大変レベルが高く審査は大変でした。自分が経験したことからさらに勉強してそのことを考えたスピーチが多く、



蔦清行先生

このような経験は世界で活躍しようとする皆さんにきっと役立つと思います。」と学生たちにエールを送ってくれました。

文化庁の **圓入 由美 先生**からは「コロナ禍で日本に留学することを決断し、大変な状況の中で留学生の皆さんが日本語の勉強を一生懸命がんばっている様子がスピーチの内容から伝わってきました。心から皆さんを応援したいし、その努力を関係者に発信していきたいです。」と話されました。

国際交流基金関西国際センターの **熊野 七絵 先生**は「バラエティーに富んでいて、とても聞きごたえのある内容でした。自分を揺さぶった、自分を変えるきっかけになったエピソードを交えながら語っていたのが印象的で、日本語が自分の言葉になっていました」と評価いただきました。



熊野七絵先生

株式会社凡人社の **田中 美加 先生**は「家族を思いやる内容のスピーチがあり、その気持ちを知ったら親御さんはとても喜ぶと思います」と共感されていました。「今後も日本語の勉強を続けて、ぜひ日本を好きになってほしいです。」と温かいお言葉を投げかけていただきました。

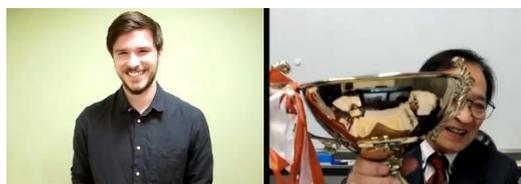
最後に主催者である全専日協の **深堀 和子 会長**（外語ビジネス専門学校）からのあいさつがありました。



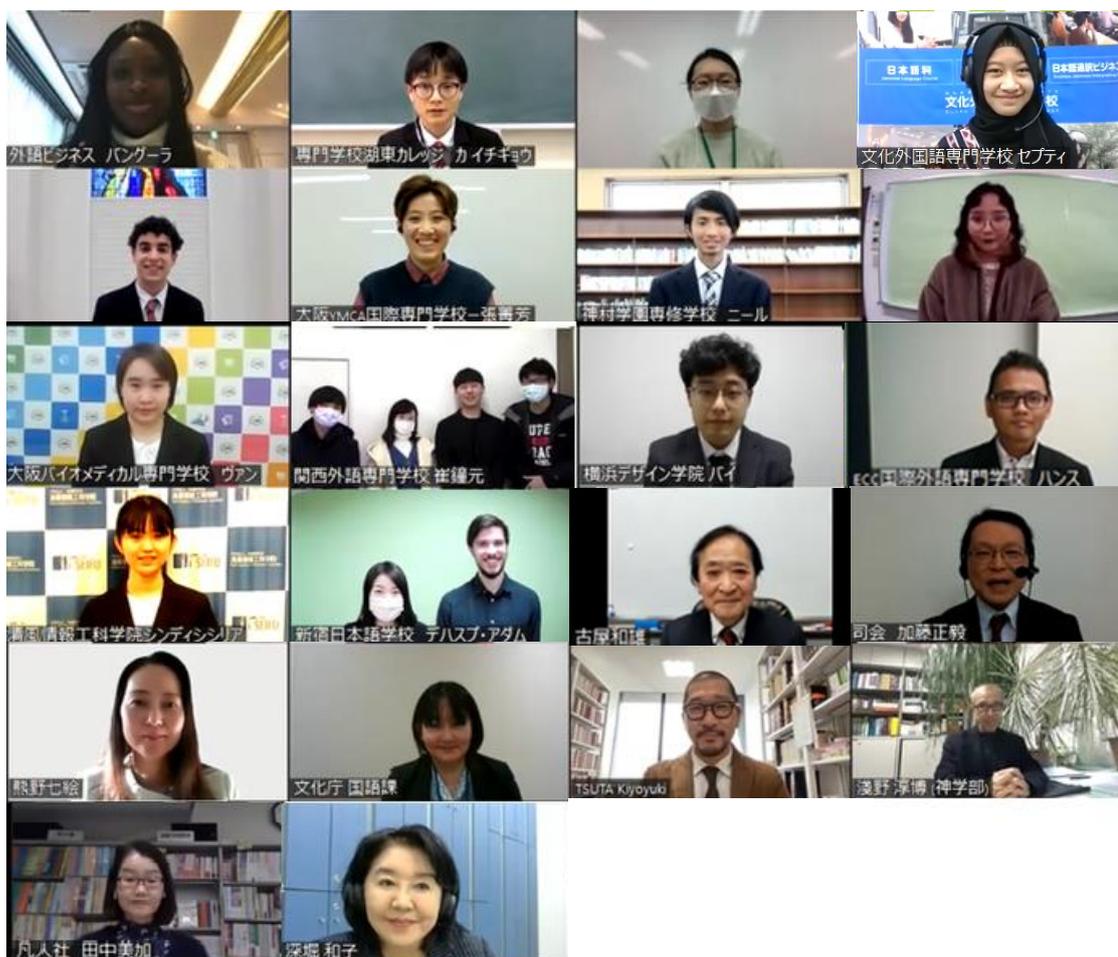
深堀和子会長

「自分では考えつかない皆さんの様々な発想に触れ、勉強をさせてもらいました。今日スピーチをしてくれた皆さんのような方々が、日本と母国の懸け橋となって未来を作っていきます。ぜひ世界のリーダーとなって活躍してほしいです」と、留学生の皆さんに抱く大きな期待を話しました。

今年度は、出場校も15校と例年の数に戻り、審査員の先生方のお話にもあったように、多彩で聞きごたえたっぷりの3時間でした。オンライン開催ということで、出場校の担当先生方には事前のリハーサルなど、多大なご協力をいただきました。そのおかげで、大きいトラブルもなく、なんとか大会を終えることができました。また、YouTubeでのオンライン配信にも挑戦し、こちらも無事に配信することができました。関係者の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。



## 参加者の皆さんとの記念写真



大会終了後、事務局には会員の方から、さっそく感想が寄せられました。

「本来であれば、直接聞くことができなかった本校の学生達も、  
ライブ配信で弁論大会を楽しむことができました」

「発表者以外の学生にもクラスメートの入賞が勉強の励みになりました」

「オンラインは、画面越しですが一人ひとりにスポットが当たり、  
発表者の人柄がより伝わってくる気がします」

今後も会員の皆さんの声を活かしながら、より良い大会を目指してまいります。お気づきのことがあれば、いつでも事務局までお寄せください。来年度も多くの出場者の皆様と再び弁論大会でお会いできることを楽しみにしております。

2022年2月21日  
全国専門学校日本語教育協会  
ニュースレター担当